

様式第1号

事業再評価シート

事業名	河川事業（土地利用一体型水防災事業）		
箇所名	一級河川五ヶ瀬川水系 北川（下流）	市町村名	延岡市

（上段（ ）書きは当初計画）

実施方法	<input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 交付金 <input type="checkbox"/> 県単		
事業期間	採択年度	再評価年度	完了予定年度
	H16	H25	(H26) H29
事業進捗	全体事業費 （百万円）	既投資額 （百万円）	進捗率（％）
	(4,581) 5,417	3,894	事業費      用地 71.8          64.1
再評価の概要	対象選定理由		事業効果(B/C)
	事業採択後10年経過		(-) 1.25
			対応方針原案 継続

全体計画
<p>北川では、平成9年9月の台風19号により、甚大な浸水被害を受け、流域全体で2,019戸、県管理区間だけでも653戸の家屋浸水が発生したため、直轄管理区間と併せて河川激甚災害対策特別緊急事業（激特事業：H9～H15）により河川改修を実施した。</p> <p>激特事業では、川沿いに山が迫っているという地域特性から、従来より北川の改修方法として継承されてきた霞堤方式を採用しており、背後地の浸水をある程度許容している。そのため、さらに治水安全度の向上を図る目的で、平成16年より土地利用一体型水防災事業を実施している。</p> <p>※ 五ヶ瀬川水系河川整備基本方針：平成16年1月26日策定 北川圏域河川整備計画：平成17年3月7日策定</p>

事業概要
<p>県管理区間から上流11.7km区間について、宅地嵩上げによる整備を実施している。</p> <p>改修延長 L = 11.7 km          総事業費 5,417百万円          計画規模 4,000m<sup>3</sup>/s：川島橋地点（計画洪水規模：1/30）          事業内容 宅地嵩上げ（200戸）</p>

事業目的
<p>○対象事業の目的、必要性 北川では、これまで度々浸水被害が発生しており、流域住民からも早期改修の強い要望がある。平成9年洪水と同規模の洪水に対して家屋の浸水被害を解消するために、事業を実施している。</p> <p>○計画での位置付け 北川圏域河川整備計画が平成17年3月7日に策定されている。</p> <p>○事業を継続する必要性 順次宅地嵩上げを実施しているが、依然として嵩上げが完了しておらず、平成9年と同規模の洪水が発生した場合に浸水被害を受ける可能性のある家屋が残されていることから、事業を引き続き実施する必要がある。</p>

### 事業の進捗状況

#### ○現在の事業進捗、整備効果の発現状況

平成16年度より各地区において、宅地嵩上げを順次進めてきており、平成25年度までに全体200戸のうち130戸が完成する予定である。

宅地嵩上げが完了した130戸では、平成9年洪水と同規模の洪水が発生した場合でも、家屋の浸水被害は解消される。

#### ○今後の事業進捗の見込み

現在、須佐地区および大峡・差木野地区において宅地嵩上げを実施中であり、引き続き浸水被害の解消を図っていく。

### 社会情勢等の変化

#### ○事業を取り巻く社会情勢等の変化

流域内に東九州自動車道が建設されるなど地域の重要度は高くなっている。

#### ○災害等の発生状況

平成 5年 8月(梅雨前線等)	床上浸水0戸、床下浸水7戸、浸水面積561ha
平成 5年 9月(台風13号)	床上浸水2戸、床下浸水6戸、浸水面積338ha
平成 9年 9月(台風19号)	床上浸水1334戸、床下浸水685戸、浸水面積957ha
平成10年10月(台風10号)	床上浸水23戸、床下浸水54戸、浸水面積153ha
平成13年10月(豪雨)	床上浸水1戸、床下浸水16戸、浸水面積428ha
平成16年10月(台風23号)	床上浸水146戸、床下浸水135戸、浸水面積824ha
平成17年 9月(台風14号)	床上浸水131戸、床下浸水98戸、浸水面積550ha
平成19年 7月(台風4号)	床上浸水0戸、床下浸水7戸、浸水面積88ha

### 事業効果の分析

#### ○費用対効果

費用対効果は、1.25である。

#### ○事業を継続することの事業効果分析

事業継続により、平成9年洪水と同規模の洪水に対しての家屋の浸水被害を解消し、安全で安心して暮らせる社会づくりが推進される。

### コスト縮減

事業計画時に下流からの連続堤による整備と輪中堤・宅地嵩上げによる整備を比較し、低コストとなる水防災事業により取り組んでいる。

さらに、事業の中でも輪中堤による整備と宅地嵩上げの比較検討を行い、低コストとなる工法を採用している。

また、宅地嵩上げの盛土には、河川に堆積していた土砂を掘削し、利用している。

### 代替案の可能性

代替案として、河川改修（築堤、掘削等）が考えられるが、下流への負担が大きく、コストや効果の発現時期においても不利であるため、現況案が最も適した案である。

### 対応方針

継続

位置図（管内図）

